The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	平野郷含翠堂の奮址を視る
Author(s)	小沼, 量平
Citation	懐徳. 1924, 1, p. 32-32
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88688
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

平野鄉含翠堂の舊址を視る

小沼量平

大正十二年十二月九日松山會長、稻東名譽會員、堂友鎌田春雄、今西茂喜、岡田玄碩、野口幸雄、中川幸三、井上正美、小沼量平の一行府下東成郡平野鄉町に含翠堂の舊址を訪ふ當主土橋知之進氏慇懃に一行を迎へ含翠堂創立以來の事績に就て悉さに語るところあり尙ほ堂の遺物數百點を出して隨意觀覽せしめらる抑々含翠堂は當主知之進氏十世の祖土橋誠齋（名は友直通稱は七郎兵衛）先生が育英の志を起して享保二年に創立せられ其の師京師の人河瀨菅雄先生、同門の先輩三輪執齋先生、其他伊藤東涯、三宅萬年、五井持軒、等の碩學諸先生を招聘して講筵を開かれたるを以て學徒遠近より雲集し地方文化の中心たるかの觀を呈せり初老松堂と名けしを石庵先生の意見に從ひ含翠堂と改めしと云ふ。爾來其の後裔敬直、重榮、重賢、直温、保固等の諸氏相繼で管理し大阪の懷德堂とは終始關係淺からず石菴先生以後竹山、履軒、碩果、蕉園、並河寒泉等の諸先生も來講せられたりしが學制の改革と共に明治五年可惜廢絕に歸したりと、遺物には伊藤東涯先生の含翠堂記漢文壹卷、三輪執齋先生、含翠堂記和文壹卷、土橋節齋先生の含翠堂記和文壹卷、河瀨菅雄先生の歌集、土橋誠齋先生の歌集、伊藤重行、三宅觀瀾、五井持軒、中井甃菴、三宅春樓、五井蘭洲、中井竹山、中井履軒、並河寒泉等諸先生の書畫及書翰其他數多あり土橋誠齋先生の遺著には耕閑集、機案記等あり土橋節齋先生の遺著には大學私議論士道、遷墓記、喩俗俚言、節齋隨筆等を見たり其他寫本にて珍重すべきもの種々ありたれども之を畧す。

含翠堂は教育事業の外に賑窮事業にも大に力を盡したり誠齋先生曾て備荒貯蓄の要を論じ享保四年十月同志と謀りて醵金を爲し之を賑窮料と名づけ更に有志の人々より寄附を募り增殖に勉め享保十七年蝗災の時より爾後幾回かの饑饉の際窮民を救助し社會事業に貢獻したること多しと云ふ。夕五時晩餐の饗を享け當主の案内にて含翠堂講堂の舊址を視厚遇を謝して歸途に就きたり。因に云ふ舍翠堂の創立者誠齋土橋七郎兵衛友直先生は教育と社會事業の功勞を勸せられ大正十三年二月十一日從五位を贈られたり。